

月

星をあつめる少女





ルナは夜空を見上げるのが大好きな女の子。

「いつか星に届きたい」

それがルナの夢でした。



ある夜、おばあちゃんが  
不思議な**ビン**をくれました。

「これは星を集め**る**ビンだよ」

「でも星は遠すぎて届かないよ」

「本当にそうかしら？よく見てごらん」

おばあちゃんが指した先。

水たまりに星が映っていました。

ルナはそっとすくいました。



ビンの中で小さな光がゆらゆら。

「できた！」

ルナの目が輝きました。

それからルナは毎晩星を集めました。

露に映る星、窓に映る星、涙に映る星...





ある日、カラスがBINをくわえて  
飛んでいきました。

「あ！私の星！」

ビンは遠くの木の上に落ちて  
割れました。

光がバラバラに散っていきます。



ルナは泣きました。

「全部なくなっちゃった...」

祖

「上を見てごらん」

散らばった光は夜空に昇っていき、  
**新しい星座**になっていました。





「あなたが集めた光は、消えたんじゃない。  
空に届いたのよ」

この物語から：

小さな光を集め続ければ、

いつか大きな輝きになる。

ルナの星座は今も夜空で輝いています。

月

おしまい

